

新入生の皆さん、入学おめでとう。

日本工業大学は、昨年、設立50周年を迎えました。そして次の半世紀のスタートとなる今年、本学始まって以来の大改革を行い、新しい学部・学科を立ち上げました。その1期生として入学された皆さんは、まさしく本学の期待の星であり、新しい日本工業大学の歴史を共に創っていく仲間でもあります。皆さんの夢を叶えるため、これからの4年間、教職員一同、全力でサポートしていきます。

本学は設立以来「実工学の学び」を標榜し、実験・実習を重視するプログラムで多くの実践的技術者を輩出してきました。今回の改革では卒業生の質保証をより確かなものにするため、伝統を継承しつつ、教育内容を大きく進化させました。大きなポイントの二つは、入学直後のプロセスメントテストで一人ひとりの能力を把握し、工学の基礎となる数学・物理・

やらないでは済まされない 学びの環境づくり

英語については「習熟度別クラス編成」とし、これらについては1年を4期に分けるクォーター制を導入したことです。これまで本学は、工業科出身者用と普通科出身者用の2種類のカリキュラムを用意し、入学後1年程度は、各々の高校での学修履歴を活かすというプログラムで



学長
成田 健一

実施してきました。しかし、工業科・普通科どちらの学生についても多様性が拡大し、このような2つの区分では対応しきれなくなってきたため、出身高校によらず一人ひとりの学生に適切なレベルの講義からスタートし、確実にハードルを越えながら順次基礎力を身につけられる

システムとしました。各科目で質保証に必要と考えたレベルの科目を必修化し、またレベル順に下位科目の修得を条件とする「履修縛り」を設けました。学生にとっては、わかるまで繰り返し学べるが、「やらないでは済まされない」環境です。その一方で、学修支援センターのスタッフを増員するなどセーフティネットも充実させ、わかるまで教えるという覚悟も教職員に共有してもらいました。

明確な達成目標を示し、評価基準も明確にすることで、自らの成長を実感しながらチャレンジし続けられるそんな「わかるようになった時の感動を味わってもらえる環境づくりを意図しました。その環境を活かせるかは、努力しだいでは成長できると思うマインドを持つかどうかで決まります。厳しい環境を積極的に活かして成長した、4年後の皆さんの自信に満ちた笑顔を楽しみにしています。